

マスコミ利権の証明

昨年の12月13日と今年2月26日の北國新聞社「社説」は、県中央公園の整備について樹木を残しながら整備を喚起しています。

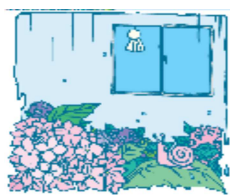
昨年12月の社説抜粋
― 県中央公園は3・3畝の敷地に芝生公園が設けられている。現在は土がむき出しになっているところが多く、足場が良くない。行事

がないときは閑散としており、樹木が視界を遮っているため、やかんは危険な印象も与えている。再整備は中心部の利点を生かし切れない現状を改善するためには必要な事業である。・・・イベントに使いやすいように透水性の舗装を施し、・・・樹木はシンボルとなる大木を残しながら整備する。―

フットピア主催者（北國新聞社）の意見を優先する整備事業です。

その前に県民の意見が最優先します。思考がおかしいのでは。非常識でズレている。

当初の伐採計画の45本の樹種と直径、切り倒した樹木の直径と本数と移植の明細内訳を、県土木部長は明らかにすべきであります。



黄金の奴隷たるなかれ

日本人の平均寿命はこの20年で一世代近く伸びています。「相続税対策」の時代から「生存対策」の時代に入っています。

大切にされる高齢者の対策、相応の財産を持ち続けなければなりません。今日多くの相続財産を受け取るのは50代60代です。後に残っているのは働かない30年を見通した「生存対策」です。

刑法上、業務上、託された者の責任の5つがあります。常に意識しています。税務の現場を長年経験しているため、スレスレゾーンの説明を求める人がおられます。

私も含め人は「欲」の塊です。死んでも解脱にほど遠いのです。専門家は常に「責任」を意識しているものです。責任には道義的、民法上、本部と一体で、だんまりを決め込んだのです。

金沢市の玉川公園整備計画の対応と違いは歴然です。県中央公園整備の5月6月のかけらも見せず実に不遜な態度、石川県民を愚弄している。（県議会中継ビデオ）

土木部長を擁護する、谷本知事も元は自治省の派遣、土木部長も石川県人ではない。

某マスコミは権力に面ね、読者を愚弄する自爆行為と指摘しなければならない。

事実とは真実の敵

中央公園整備事業を議会で議論をしても県民には、十分知らされていない。

伐採計画反対の声を、県土

県土木部長は一部の反対と

(有)西川経営オフィスサービス

中村会計

事務所便り

2013年7月8日（月）NO. 303

地域から明るい未来を作ろう